

The logo for St. Luke, featuring a stylized cross above the word "St. Luke" in a serif font. The background of the entire page is a lush green forest with a large tree trunk on the left and sunlight filtering through the leaves.

St. Luke

開院10周年記念誌

ST. LUKE THE 10TH ANNIVERSARY

開院10周年記念誌

沿革

1992年

- 5月28日 定礎式
- 6月3日 診療開始
- 6月13日 腹腔鏡手術開始
- 6月27日 開院披露
- 7月27日 体外受精開始
- 10月1日 顕微授精装置設置
- 10月6日 体外受精妊娠成功

1993年

- 2月1日 ミリQシステム導入
- 3月25日 GIFT 妊娠成功
- 6月10日 体外受精出産
- 10月12日 顕微授精 (PZD) 妊娠成功
- 10月22日 プログラムフリーザー設置

1994年

- 7月1日 凍結胚移植妊娠成功
- 9月24日 ICSI 妊娠成功
- 12月1日
～10日 研究室改造

1995年

- 1月1日 医療法人認定
- 10月6日
～12日 研究室改造
- 11月9日 RESA-ICSI 妊娠成功

1996年

- 3月7日 妊娠成功1000例
- 6月1日 病院専用駐車場開設

1997年

- 6月21日 情報処理室開設
- 8月23日 セント・ルカ産婦人科開院5周年記念祝賀会
- 10月2日 HomePage 開設

1998年

- 4月27日 セント・ルカ生殖医療研究所起工式
- 10月12日 セント・ルカ生殖医療研究所竣工式

1999年

- 5月29日 SarahBase 販売開始
- 7月26日 ㈱メディテック・ルカ発足

2000年

- 6月26日 Vitrification 妊娠成立
- 6月30日 カウンセリング講座開講 (1回/月)
- 11月30日 セント・ルカ生殖医療研究所動物舎完成

2001年

- 7月11日 待合室・受付改装工事着工
- 10月9日 新受付・待合室完成

概要

■名 称 医療法人セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

■開設年月日 1992年6月3日

住 所 〒870-0947 大分市津守富岡5組
TEL 097-568-6060 FAX 097-568-6299

E-mail st-luke@oct-net.ne.jp

<http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke>

<http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/imode/> (携帯電話用)

許可病床数 14床

職 員 数 総数39名

常 勤 医 1名

研 究 室 6名

検 査 室 3名

看 護 婦 10名

准 看 護 婦 9名

心 理 士 1名

総 務 部 1名(兼任)

事 務 部 3名

情 報 処 理 室 3名

調 理 士 2名

栄 養 士 1名

■診療時間 月、水、金 9:00~12:00

17:00~19:00(要予約)

火、木、土 9:00~12:00(祭日を除く)



10周年記念誌 巻頭言



開院してはや10年が経過した。この10年間に5,600回あまりの採卵や、2,000件ほどの腹腔鏡、さらに開腹手術などを行った。その結果、2,800件あまりの妊娠が成立した。その間において、さしたる事故もなく、無事にやってこられたのもイエス様のお導きとセント・ルカを支えてくださっている方々のおかげであることを感謝している。

この10年間、不妊診療においては目覚ましい発展を遂げた時期であった。不妊診療における体外受精（IVF）の定着に続き、顕微授精（ICSI）の成功によって、極端に言えば子宮、卵子、精子があれば誰でも赤ちゃんを望める時代に入った。不妊診療の歴史から言えばほぼ理想的な状況が実現していることになろう。

しかしわれわれ不妊診療の「専門家」としては、以上のことは医学上、技術上のことであり、不妊診療にはまだまだ解決しなければならない問題が山積みされ、取り残されていることを自覚しなければならない。ひとつは患者さんの心のケアであり、また、保険適用に象徴される不妊診療の社会化である。不妊診療の医学上、技術上の知見は各学会、論文などで数多く発表されている。それに比べ、患者さんの精神的な問題の研究、ケアについてはやっとな緒についたに過ぎない。また不妊診療の社会化という点についてはまだまったく手が付けられていないといっても過言ではなからう。

2002年の4月に胚培養士（エンブリオロジスト）の認定試験が実施された。これでエンブリオロジストの社会的、経済的、対外的な身分保障が実現できた。これによって各不妊診療機関のレベルの基準化が可能となり、医学的には安心できる不妊診療が約束されるであろう。

次に患者さんの心のケア、サポートである。われわれも看護部門が中心になって数多くの研究を行ってきたが、不妊症の特殊性として、医学的な点以外の「心の問題」が他の疾患には見られないほど重いことを発表してきた。これは不妊症の歴史を見れば納得がいくが、いまだにその負の遺産をひきずっていかねばならない患者さんの気持ちをいかにしてサポートしてゆくか、不妊診療に携わっている者全員が与えられた責務として自覚しなければならない。そして一般的なサポートは日常診療の合間を縫って可能であろうが、中には専門的な心理学的ケアを必要とする患者さんが少なからず存在することを認識しなければならない。そのためには不妊症専門のカウンセラーが必須となる。患者さんの深く重たい心の内面を観察し、分析し、的確なアドバ

イスを行えるのは少なくとも大学の心理学課程を修了したカウンセラーでなければ不可能である。この「不妊カウンセラー」にも「胚培養士」のような資格を設定しなければならない。

また、不妊診療は自費診療部分が多い。われわれの研究でも一般的治療であっても月収の1～2割を支払に当てており、さらに生殖補助医療（ART）の場合は貯金や親からの借金で工面していることが判明した。生殖年齢の10%の夫婦がこのように経済的に苦労しながら医療を受けているのである。他の疾患に比較してみれば、不妊の治療は基本的な人権に関わる不公平な医療といえる。早急に何らかの補助が望まれる。そこでこのたび全国の不妊診療を中心に行っている先生方に協力していただき、不妊診療の保険適用について5,000人以上の署名が集まった。6月初頭に、それをもって国会請願を行った。その後、2002年9月には国による公的補助が具体化することになったことは非常に喜ばしいことである。

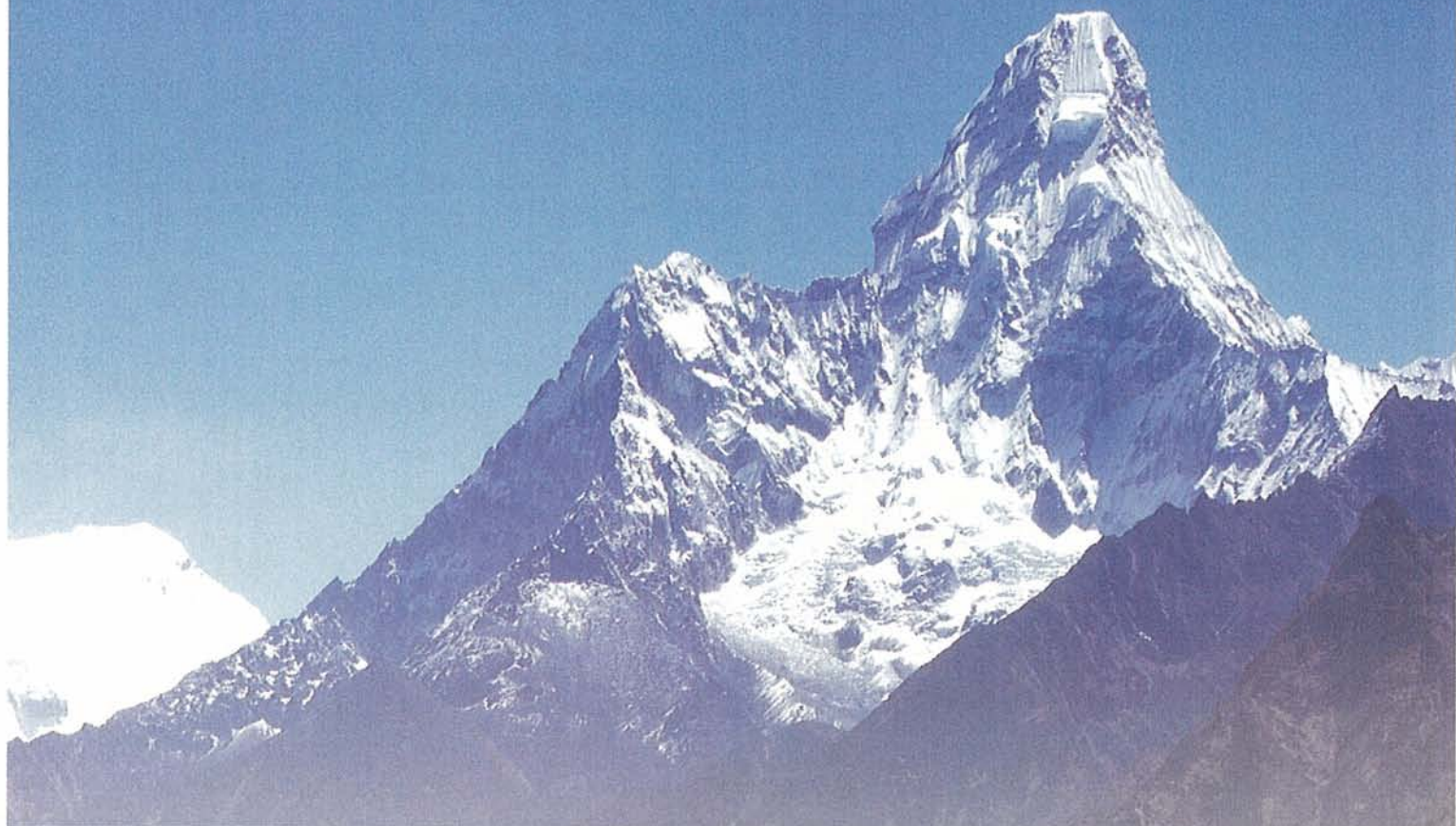
私たちはこのように不妊診療のさまざまな面を知っている。それらすべてが解決できたときに不妊症は克服されたといえる。技術的にはかなり進歩した面も認められるが、ICSIの成功以後、目に付くような発展はない。患者さんの心のケアや経済的、社会的サポートなどはまだまだスタート地点に立ったばかりである。技術面ばかりでなく、これらの点も解決しなければならない責務を負っていることを自覚しよう。

そしてさらに長年の努力にもかかわらず、赤ちゃんが授からなかった夫婦にもその後のサポートができるような医療を目指したい。

宇津宮 隆史

Contents

002	病院概要・沿革	025	セント・ルカセミナー
004	巻頭言	026	第1回セント・ルカセミナー
008	スタッフ配置	027	第2回セント・ルカセミナー
009	10年を振り返って	028	第3回セント・ルカセミナー
010	心理相談室より	029	第4回セント・ルカセミナー
012	看護部より	030	第5回セント・ルカセミナー
015	研究室より	031	第6回セント・ルカセミナー
018	情報処理室より	032	第7回セント・ルカセミナー
020	受付より	034	第8回セント・ルカセミナー
022	厨房より	036	セント・ルカ ミニセミナー
024	新聞記事より(1998年)	038	新聞記事より(1999年)



039	資料編 I	059	資料編 III
040	外来・入院数	060	学会発表一覧
041	妊娠数(2001.4~2002.3)	073	論文一覧
042	入院数の統計	076	著書一覧
043	外来患者数の統計	077	翻訳一覧
044	妊娠数(1992.6~2002.3)	078	主催講演会一覧
046	外来患者及び妊娠結果の内訳	081	講演一覧
048	初診後妊娠までの期間	082	見学・院内講習会参加一覧
049	ARTによる妊娠	084	学会・講演参加一覧
050	新聞記事より(1999年)	093	行事一覧
051	資料編 II	106	新聞記事より(2001年)
052	研究室の流れ	107	新聞記事より(2002年)
055	情報処理室システム開発・運用	108	ルカの福音書
057	院内LAN接続構成図	109	写真で振りかえるセント・ルカの10年
058	新聞記事より(2000年)		

スタッフ配置

■研究室・検査室

長木美幸、熊迫陽子、大津英子、平井香里、公文麻美
城戸京子、友永 寛、佐藤千香子、佐藤晶子

■看護部

指山実千代、磯崎美智子、柴田令子、原井淳子、品矢悦子、斉高美穂、
河口美紀、工藤いづみ、永石ヨシ子、中野栄子、田崎かおり、二宮 睦、
宿利佳子、小濱なお子、赤嶺佳枝、関こずえ、松元恵利子、篠田多加子、
實崎美奈

■心理専門相談室

上野桂子(心理士)

■総務部

宇津宮富美子

■事務部

渡邊佳代、越名久美、梅田麻衣

■情報処理室

工藤由香、佐藤順子、油布亜紀子

■厨房

後藤江美子、矢野千恵美